

課題名 山城地域の農業を支える担い手の確保・育成	人づくり	山城北・南農業改良普及センター
(1) 普及指導事項 (評価対象) ① 農業基礎知識習得と課題解決支援	(2) 普及指導対象 新規就農者 (概ね就農5年以内) 等	
(3) 活動内容と成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ R6年度は、4市3町12名の新規就農者等に対し7回の「基礎講座」を開催。講座は集合研修とし、実習と座学、管内の先進農家視察で構成した。 ・ 実習は各自のほ場のpHやECの計測など、実用性の高い内容とした。 ・ 座学は土壌や肥料、営農計画策定など汎用・応用性の高い内容にするとともに、品目は講座生の品目拡大に備え地域の特産物全般とした。 ・ 各講座終了後、今後聞きたい内容や分かりづらかったこと等のアンケートを行い、次の講義への反映や、個別対応等の寄り添った対応を行っている。 ・ 講座最終回では、全員が各自の課題と解決に向けた取組を発表、意見交換を行うことで、各自への振り返りと効果の見える化を図った。 ・ 講座への出席率は約90%。アンケート調査では講義内容は概ね理解されていた。また、到達目標達成者は11/12名(91.7%)で、問題解決に向けた観察や状況判断の着目点についても理解が高まっていた。 		
(4) コメント	(5) 普及指導計画への反映状況、今後の活動等	
<要約> 山城地域の課題・強みを押さえた上での計画・取組となっている。基礎講座では、表面的な知識ではなく「考え方」を身に付けるための教育・支援により、受講者が営農の課題や目標について、自らの意欲や問題意識を通じて抽出できるようになったことが資料からもよくわかり、評価する。 今後は、京都府農人材育成センターの経営研修との連携による資質向上の支援や個別指導、販路確保への支援など、受講生へのフォローアップに期待する。また、「考え方」を伝授する工夫については、他の普及センターとも共有できるようノウハウとして整理いただくよう期待する。	普及センターとしましては、これからも基礎講座受講生が知識習得だけでなく、自身の営農課題及び目標を抽出できるよう取り組んでまいります。 課題及び目標の抽出に向けては、受講終了後も、技術面では、定期的なほ場巡回と年2回の情報交換会等を行うとともに、経営面では、市場視察や必要に応じた京都府農業会議が主催する個別相談会への案内等を行っているところです。 今後も市町村をはじめ、京都農人材育成センターや農業会議等の関係機関と連携しながら、より円滑な「経営者」へのステップアップを支援するとともに、「考え方」を伝える方法の整理等については講座開催方法の見える化等により取り組んでまいりたいと考えます。	